

Rotary Club of AMA weekly report.



2018~2019年度 国際ロータリーテーマ
**インスピレーションに
なろう**

事務所 〒453-0015 名古屋市中村区椿町17番16号 丸元ビル
TEL(052)451-6617 FAX(052)451-6710 e-mail: kk01-ama@eos.ocn.ne.jp



2018-2019年度
RI会長 バリー・ラシン
第2760地区ガバナー 村井 総一郎
会長 大竹 敬一
副会長 家田 安啓
幹事 加藤 徹

例会日 毎週月曜
例会場 名鉄グランドホテル

【会報委員会】
委員長 山田 広明・神戸 剛
伊藤 英毅・山田 幸治

2018年7月30日（晴れ） 第4週 第2240回例会

Song ” それでこそロータリー”

Visitor 菅井龍一君（岡崎RC）

Attendance

会員	78名	欠席	50名	出席率	80.65%
----	-----	----	-----	-----	--------

President Time 大竹敬一 会長



7月つまりロータリークラブの今年度になってから、豪雨・猛暑・台風・また猛暑と、わが国は災害と呼ばれる自然の猛威に連続してさらされています。本来であれば、一昨日、西尾張分区の会長・幹事会が津島で天王祭りに絡めて行われる予定でした。それで今日の会長挨拶は、天王祭りと分区に関連してしようと思っていたのですが、台風のため会議は延期となってしまいました。「あまロータリー50年度は、呪われたスタートだ」と思いがちですが、そうであれば、ほぼ全国のロータリー新年度は呪われているわけですし、「悪い環境でスタートすれば、後はどんどん良くなるばかり」とも考えられます。鈴木正徳パスト会長の会長方針「LET'S THINK POSITIVE, ENJOY SMART LIFE」の、特に前段は私の人生観とまさに一致しており、す

ごく共感できました。この話はまた、別の機会に続きをさせていただきます。と思います。

さて、今日は今年度では初めてのゲスト講師をお迎えしての卓話例会です。家田副会長のご尽力で、お忙しい中お越しいただいた本日の講師・元朝日新聞記者の樋田毅様は、私の高校、大学の先輩でもいらっしゃいます。30年ほど前に朝日新聞社を襲い世間を震撼とさせた赤報隊事件についてお話しして頂けると思います。その少し後に、社会を騒然とさせたオウム真理教事件が起こり、世間の目はそちらに集中しました。偶然とはいえ、オウム事件の死刑囚全員の刑が執行されて間もない今日、赤報隊事件についてお話を伺うことは、何かの奇縁なのかもしれません。朝日新聞社という特定の組織に対して狂信的なテロ行為を行った赤報隊事件と、特定の敵対者の排除からやがて不特定多数の市民を巻き添えにしたやはり狂信的なテロ行為で多くの犠牲者を出したオウム事件、直接の関連はない二つの事件では

Today	8月 6日（第2244回）
担当	山田尊久 会員増強委員長
演題	クラブフォーラム 「あまRCにとっての会員増強」 地区会員増強委員会 石井弘子副委員長 会員増強委員会
Next Week	8月20日（第2245回）
担当	伊藤正征 プログラム委員長
演題	卓話 「サギやケリの舞う生命豊かな尾張平野を目指して」 尾張西部生態系ネットワーク協議会 会長 長谷川明子氏

ありますが、その狂信性と凶暴性には、共通の怒りを覚えます。本日のお話を聞いて、自らのPOSITIVE THINKINGに昇華できるかが、自分としての今日の課題だと思えます。皆さんもそれぞれの思いで今日の卓話を感じていただければと思います。樋田先生、よろしくお願いします。

Secretary Report

加藤 徹 幹事

- 1 ローターレートが8月1日より1ドル112円（現行10円）に変更となります。
- 2 浅野多喜男君が第30回米山功労者に寄付されました。
- 3 北野庸夫君が第4回MPHFに寄付されました。
- 4 黒野晃太郎君に第6回MPHFピンが参りました。



ニコボックス

ご投函有り難うございます

大竹敬一 会長

本日は、今年度初のゲスト講師による卓話例会です。
樋田先生、よろしくお願いします。
九州など、まだ豪雨の心配があります。皆さん頑張ってください。

家田安啓 副会長

樋田さんの卓話です。よろしくお願いします。

加藤 徹 幹事

今度の土・日に蟹江町須成祭りが開催されます。土曜日の夜8時から9時がクライマックスです。是非遊びに来て下さい。

渡辺 均君

この春に、ハウス・オブ・ザ・イヤー2017年の特別優秀賞を頂きましたら、こんな小社にTVとか他の種

々な分野から提案を受け、超多忙になってます。

4月に大工社員として6名の新卒が入社しました。10年先の棟梁姿が楽しみです。

山田尊久君

台風が近づく度に、川の多い蟹江町は心配です。建物は浸水を考えて設計すべきと、改めて思いました。

稲垣秀樹君

ニコボックスの皆様、ご苦労様です。

板津和博君

渡辺君、西川君、東海君、伊藤正征君、昨日は有り難うございました。

本日50周年に向けてコーラス部に参加させていただきました。難しいです。

伊藤英毅君

昨日は孫達と夕食会でした。疲れるけど、楽しい時間でした。

伊藤正征君

第13回AMA79参加の皆様、有り難うございます。

加藤憲治君

先週は夏行事の蓮見の会・雨の天王祭りも無事終わり、ほっとしています。

黒野晃太郎君

合唱練習参加の皆様、有り難うございました。8月の練習日は17日と28日です。皆様是非参加して下さい。

三木勝也君

ニコボックスの皆様、ご苦労様です。

水野 真君

天災お見舞い申し上げます。私宅は雨も降らず、雨水槽のメーター異常なしでした。

水谷安紀君

ニコボックスの皆様、ご苦労様です。

中澤浩一君

台風の影響が少なく、土曜・日曜共にゴルフが出来ました。晴天でした。

酒井和雄君

後藤建設（後藤雅光君）さん、八坂神社奉賛企業になっていただき有り難う。

田中正博君

今日の卓話、樋田毅先生のお話、楽しみにしています。

合計 43,000円

卓 話

「記者襲撃 赤報隊事件30年目の真実」

元朝日新聞社 樋田 毅氏



本日の卓話は、家田さんから依頼を受けました。私は朝日新聞社に在社中の2003年春から2004年夏にかけて、和歌山総局長をしていたのですが、その時、和歌山ロータリークラブに入会していました。やはり毎週月曜日に例会があり、卓話の企画を担当したこともあります。また、私は旧海部郡の隣、中島郡の祖父江町の出身なので、その意味でも「あま」の名前に懐かしさを感じ、家田さんからの依頼を二つ返事でお引き受けしました。

さて、今日は2月に出版した拙著『記者襲撃 赤報隊事件 30年目の真実』について、お話をさせていただきます。私は、31年前に「赤報隊」の名前で起こされた計8件の事件の取材を続けてきました。8件の中で、最も衝撃が大きかったのは1987年5月3日、朝日新聞阪神支局に目出し帽の男が侵入し、散弾銃で記者2人が殺傷された事件です。事件発生から3年間は、他の仕事は一切しないで、ひたすら犯人を追いかける「特命取材班」に入り、その後は、他の仕事の傍ら、時間を見つけては取材を続けてきました。

「赤報隊」が事件の度に通信社などに送りつけてきた、犯行声明文と脅迫状は、いずれも右翼的な内容でした。戦後の日本社会について「占領米軍によって日本の文化伝統が破壊された」と全否定。「すべての朝日社員に死刑を言い渡す」と主張し、実際に実行したのです。

こうした事情で、私が取材したのは全国各地の計約300

人の右翼活動家たちでした。事件は未解決のまま公訴時効となりましたが、その取材経過をまとめたのが、この本です。「赤報隊」は名古屋市でも2つの事件を起こしています。東区にあった朝日新聞社の寮への銃撃事件と、中村区の愛知韓国会館放火事件です。出版にあたっては、家田さんに原稿を読んでもらいました。記述内容に法的な問題があるかどうかを専門家の目で見てもらったのです。出版後も、彼から貴重な助言を受け続けています。

プロフィール

昭和27年（1952年）生まれ。稲沢市（祖父江町）出身。

旭丘高校卒業（ポート部）。

早稲田大学第一文学部社会学科卒業。

1978年 朝日新聞社入社。

2017年12月 朝日新聞社退社。

本の紹介

記者襲撃 赤報隊事件30年目の真実 岩波書店

1987年（昭和62年）5月3日に朝日新聞阪神支局が襲われ、記者1名が死亡、もう1名が重傷を負った事件は、犯人は見つからないまま時効となりました。赤報隊を名乗る犯行声明が出された事件は、他にもあり、いろいろな手掛かりがありながら、迷宮入りしている事件です。特別取材班として、この事件を追い続け、特別取材班解散後も、独自の取材を続け、朝日新聞を退社したのち、2018年2月に本書を出版したものです。

前半は、右翼の犯行の線でまとめられ、後半は宗教団体の犯行の線でまとめられています。最終的には誰が犯人かは不明のままですが、非常に読み応えのある本です



「玉ノ井部屋に激励」

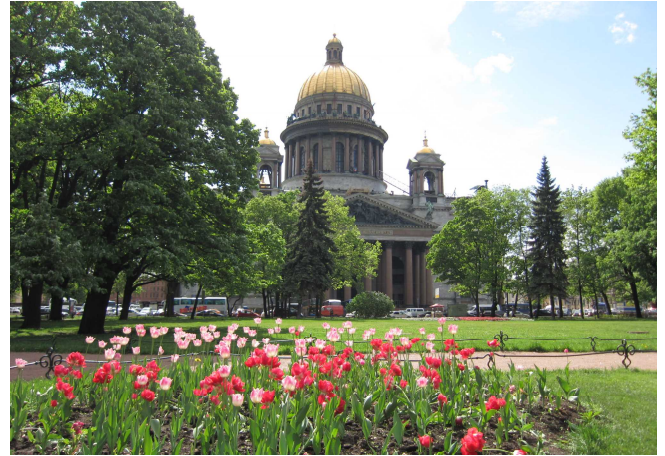
渡辺 均君・伊藤正征君

玉ノ井部屋へ激励に伺いました。若い衆の作ったちゃんこ鍋は絶品。現在29名のお相撲さんを抱える玉ノ井部屋。勝ち星を増やして、暑い名古屋を。



山田幸治君

次に訪れたのはイサク大聖堂です。イサク大聖堂の前にはピョートル大帝の騎馬像があります。青銅の騎馬像は長い蛇を踏みつけています。

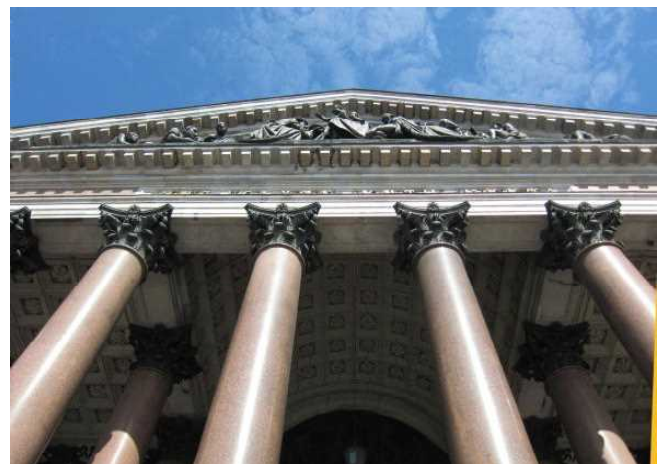


イサク大聖堂



ピョートル大帝の騎馬像

イサク大聖堂はコリント様式の太い柱が何本も使用されています。青銅の大きな扉から中に入ると、この青銅の素晴らしさが良く分かります。内部の写真をご覧ください。



イサク大聖堂正面の柱